

# 令和6年度 こども園評価結果公表シート

令和7年3月 野の百合こども園

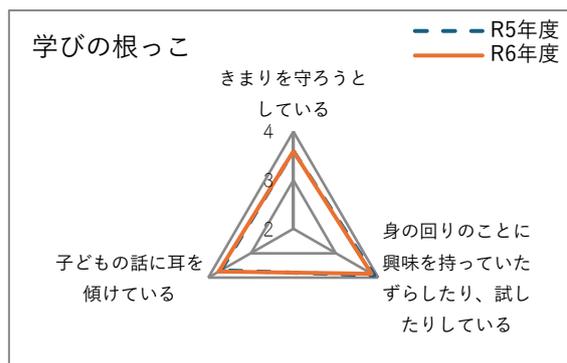
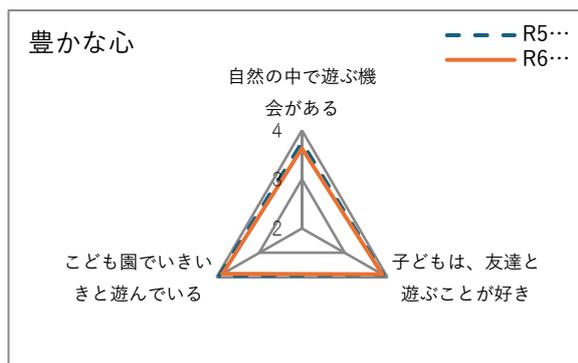
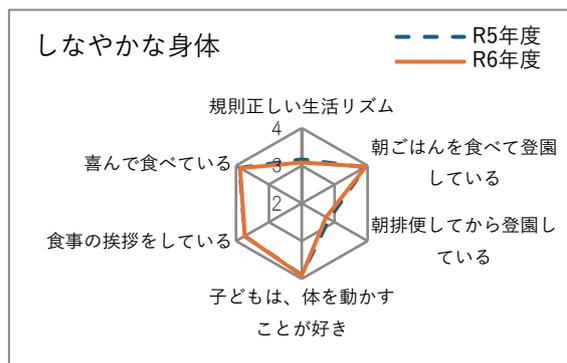
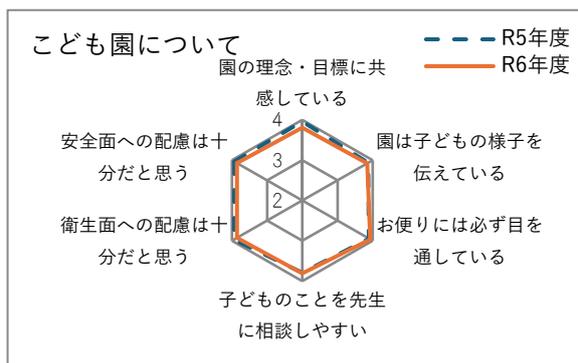
<p>教育及び保育の目標</p> <p>「生きる力と思いやりを持った子に育つ」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、自分は愛されているという喜びを持てる。</li> <li>2、自分の言いたいことしたいことを表現できる。</li> <li>3、決められたことを自分の気持ちでできる。</li> <li>4、食教育で健康な心と身体が育つ。</li> <li>5、遊びを通して基本的な生活習慣を身につける。</li> </ol>	<p>重点目標</p> <p>自分も友達も大切にして、 気持ちよく過ごす。</p>
---	---

## 1、評価項目の達成及び取り組み状況・今後に向けて

評価項目	・取り組み状況 ●今後に向けて
1、法人理念の理解 職員の道德、倫理について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創立以来受け継いできた「博愛の精神」を基盤に教育と保育を行っています。</li> <li>●創立の精神と園の理念を大切に、地域に愛されるこども園であり続けるよう努めます。</li> </ul>
2、教育及び保育について ①しなやかなからだ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭と連携したからだづくりとして、令和2年度より六日町中学校区で行っている元気アップ週間を取り入れています。小中学校に兄弟がいる家庭も多いため、家族みんなが意識できる機会になっているという意見が多く聞かれ、好評です。</li> <li>・からだづくりとして、ピアノ曲に合わせて身体を動かすリズム体操や体育遊びを行っています。運動を習得させようとするのではなく、散歩や鬼ごっこ、ボール、滑り台、マットや鉄棒や跳び箱、水遊びやプール、雪遊びなど様々な遊びの中で体を動かす心地よさを感じられるよう努めます。</li> <li>●体育遊びのバリエーションを増やし、子ども達が楽しんで意欲的に体を動かせるよう工夫していきます。</li> <li>・日々の給食展示に旬の食材の紹介や調理の工夫など栄養士のメッセージを添えたことで、職員と保護者、保護者同士、親子などの間で給食の話題が増えていきます。また、給食で使用した野菜（調理前の一人分）やペットボトル飲料に含まれる砂糖の量なども展示し、食について考える機会をつくりました。</li> <li>●家庭で生活リズムを整えやすいように、睡眠の重要性やメディアとの正しい付き合い方について情報共有していきます。</li> </ul>
②豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南魚沼の豊かな自然を感じられるよう、園庭や散歩に出かけています。</li> <li>3歳以上児は異年齢で手をつないで歩くことで、小さい子も楽しんで長い距離を歩くようになりました。</li> <li>・園庭に小さな草花や香りを楽しむハーブ類を増やしました。遊びに取り入れれたり</li> </ul>

<p>③学びの根っこ</p>	<p>玄関や食卓に飾ったりして、自然や四季を感じやすい環境を整えました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園生活の中で、一人ひとりの子どもが自分の今の感情と向き合い、折り合いをつける過程を意識しました。絡み合った思いが解きほぐせない時や、どうしても自分の気持ちが抑えられない場面も多くあり、援助の難しさを実感しています。折り合いをつけようと葛藤する子どもの姿に寄り添い、保育者自身も心を揺らしながら向き合っていくという継続的な関わりが課題と考えています。</li> <li>● 「子どもの折り合う姿と保育者の援助」に着目し、教育と保育の質の向上を図ります。</li> <li>・子どもの「やってみよう」という気持ちを受けとめ、安心して挑戦できるように支えています。また、失敗することを大切に、子どもが試行錯誤しながら乗り越えられるように関わっています。</li> <li>・子どもとの会話を大切に、体験や感情と言葉を結びつけることを意識して取り組みました。また、クラスで行っているしりとり（子どもの言葉をイラストにして矢印でつないでいった図）やクイズ・なぞなぞなどを掲示し、親子の会話や遊びのきっかけ作りを行いました。</li> <li>・子どもの育ちや学びをドキュメンテーションとして可視化しました。</li> <li>● ドキュメンテーションを作成する職員が主担任などに限られているため園内研修で学びを深め、職員全体のスキルアップを図ります。</li> </ul>
<p>3、家庭、地域との連携について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南魚沼市教育委員会の教育長を講師に迎え、保護者対象の子育て講演会を開催しました。「愛着と自己肯定感が心の根っこの中心」であることを学び、子育てについて考える良い機会となりました。また、講演後に教育長の語りと職員が作曲したピアノ曲に合わせた影絵の上演を行いました。日が暮れてからの上演だったため物語の世界に没頭でき、感動したという声が多く聞かれました。</li> <li>・保護者の方々がお祭りごっこの運営や運動会の準備などにボランティアとして参加してくださいました。「安全面への細かい配慮や子どもへの援助など園の取り組みを知ることができた。感謝しかない。」「先生方の和やかな関係が園の雰囲気そのものだった。」などの感想をいただき園としても励みになりました。</li> <li>● 子どもの健やかな育ちには、家庭との相互理解と連携が不可欠です。今後も、保育参観や行事ボランティアなど保護者が園生活を体験できる機会を計画します。</li> </ul>
<p>4、保健、安全管理について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健や安全についてのマニュアルや指導計画に基づいて実践しました。職員会議ではヒヤリハット報告や対応の検討を行い、職員間で共通理解を図っています。加えて、毎月のテーマ（全国で起きた事故や季節で起きやすい事故など）について学び合うことで職員の意識も高まりました。</li> <li>● 次年度の安全会議は担当職員主導から各クラスの持ち回りに変更し、更に能動的な学び方を実践します。</li> </ul>
<p>6、職員の専門性に関する研修・資質の向上について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏の研修では保護者支援についてのグループワークを行いました。また、秋の研修では六日町小学校の校長先生を講師に迎え、架け橋プログラムの概要や幼児期に必要なこと、南魚沼市の教育基本計画等を学び事ができました。</li> <li>● 研修での学びを職員・保護者間で共有し、子ども達の育ちを支えていきます。</li> </ul>

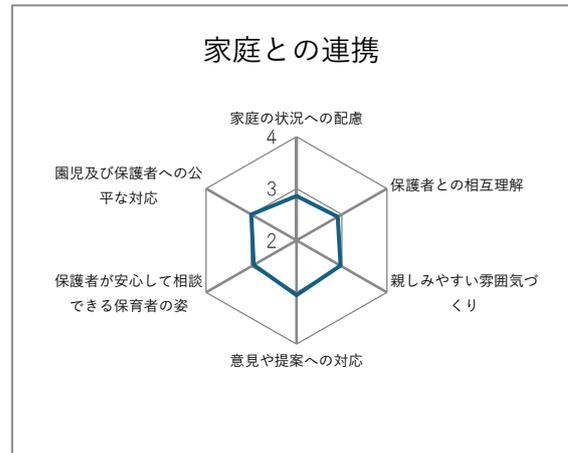
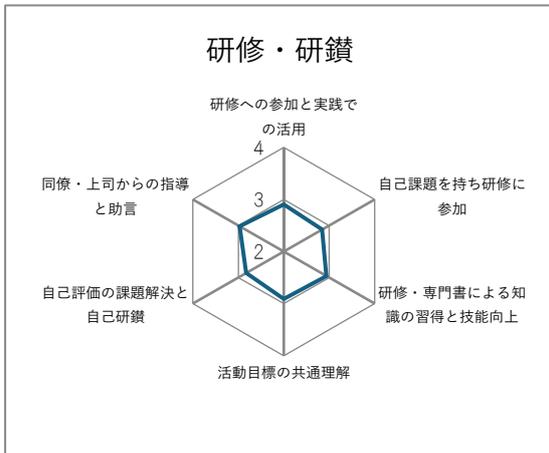
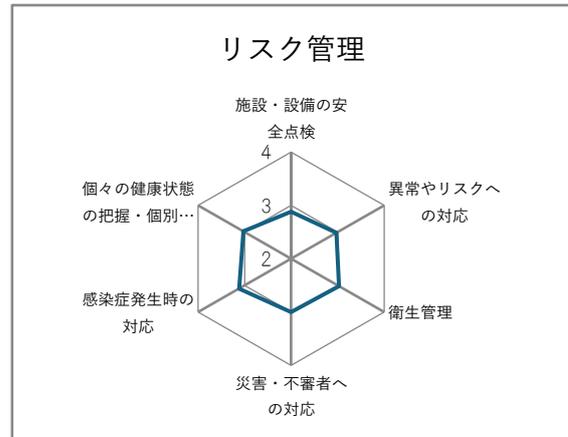
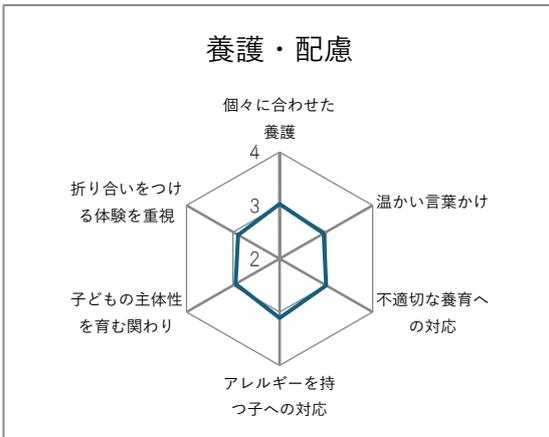
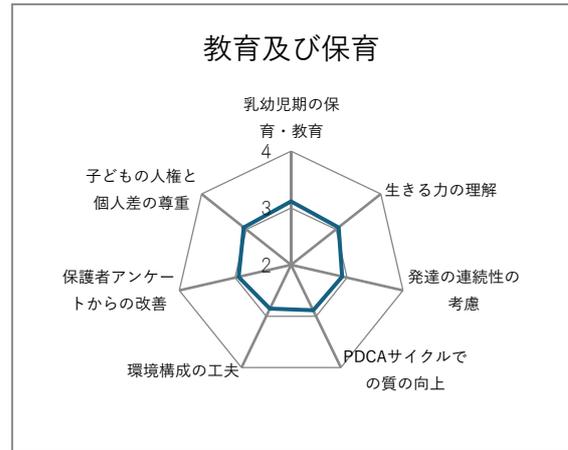
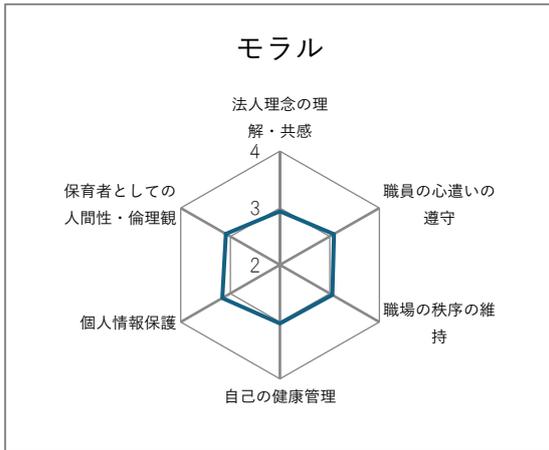
## 2、保護者アンケート結果



※各項目の値は、A（あてはまる）4点、B（ややあてはまる）3点、C（あてはまらない）2点として集計した平均値です。昨年度の値と比較しやすいように、グラフ軸の最小値を2としています。

- ・ 昨年度と比較し 0.05～0.15%の範囲で上下はありましたが概ね同様の結果となりました。
- ・ 「理念や目標に共感している」の項目は保護者・職員共にA評価ですが、昨年比去年に比べ0.2%下がりました。創立以来受け継いできた「博愛の精神」を基盤に、実践を通して理念や目標を伝えていきます。
- ・ 「園のお便りに目を通している」の項目が0.04%上がりました。紙面とアプリを活用し、家庭への情報が届きやすくなったためと考えます。今後もアプリを活用し、伝わる形での情報発信に努めます。
- ・ 衛生面と安全面の配慮について保護者職員ともにA評価ですが、昨年比去年に比べ0.08%下がりました。今後も感染症拡大予防と安全対策に努めます。
- ・ 規則正しい生活リズムの定着は例年の課題ですが、元気アップ週間を通して早寝早起きや読み聞かせ、ノーメディアデーなどを実践する様子が見られました。
- ・ 豊かな心について、「自然の中で遊ぶ機会がある」の項目が0.12%下がりました。園生活では芝生園庭ができたことで遊びの場が広がり、どのクラスも戸外に出る機会は増えています。家庭で体験できない分、こども園で自然と触れ合えるように努めます。
- ・ 「社会生活に必要なきまりを守ろうとしている」の項目が0.1%下がりました。人と人が尊重し合い協調して社会生活を営むためには、守らなくてはならない社会のきまりがあります。子どもは周りの大人を手本として良い行動を教わることで、規範意識が芽生えます。遊びや生活のきまりに気づき、その必要性や意味を子どもなりに理解して守れるよう関わっていきます。
- ・ 学びの根っこでは、「子どもの話に耳を傾けているか」の項目が0.05%上がりました。保護者向け講演会やお便り、日頃の会話等で『子どもの話をきく』ことの重要性を伝えてきた成果と考えます。

### 3、野の百合福祉会のチェックリストに基づいた職員の自己評価結果



※達成度について、Sを5点、Aを4点、Bを3点、Cを2点、Dを1点として集計した平均値です。

項目ごとの評価を比較しやすいようにグラフ軸の最小値を2としています。

S：役割以上の業務を完遂し園の評価を上昇させた

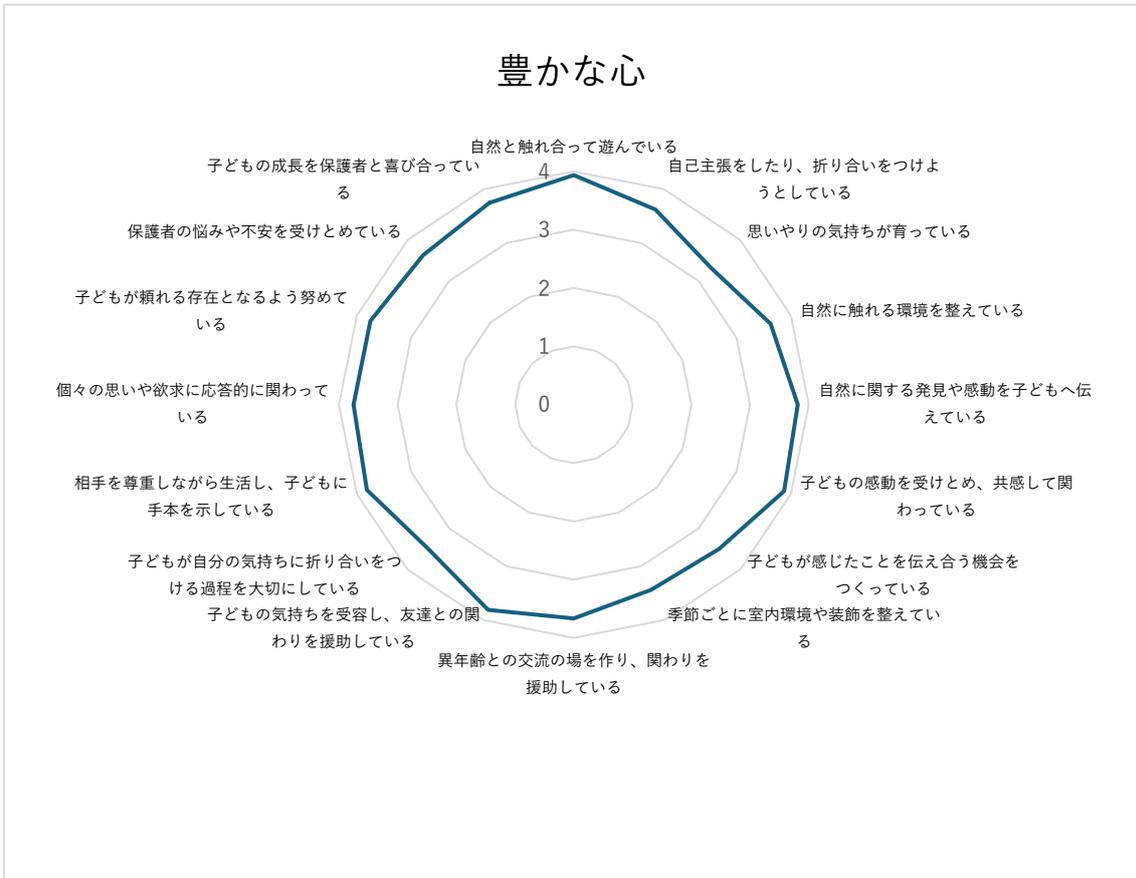
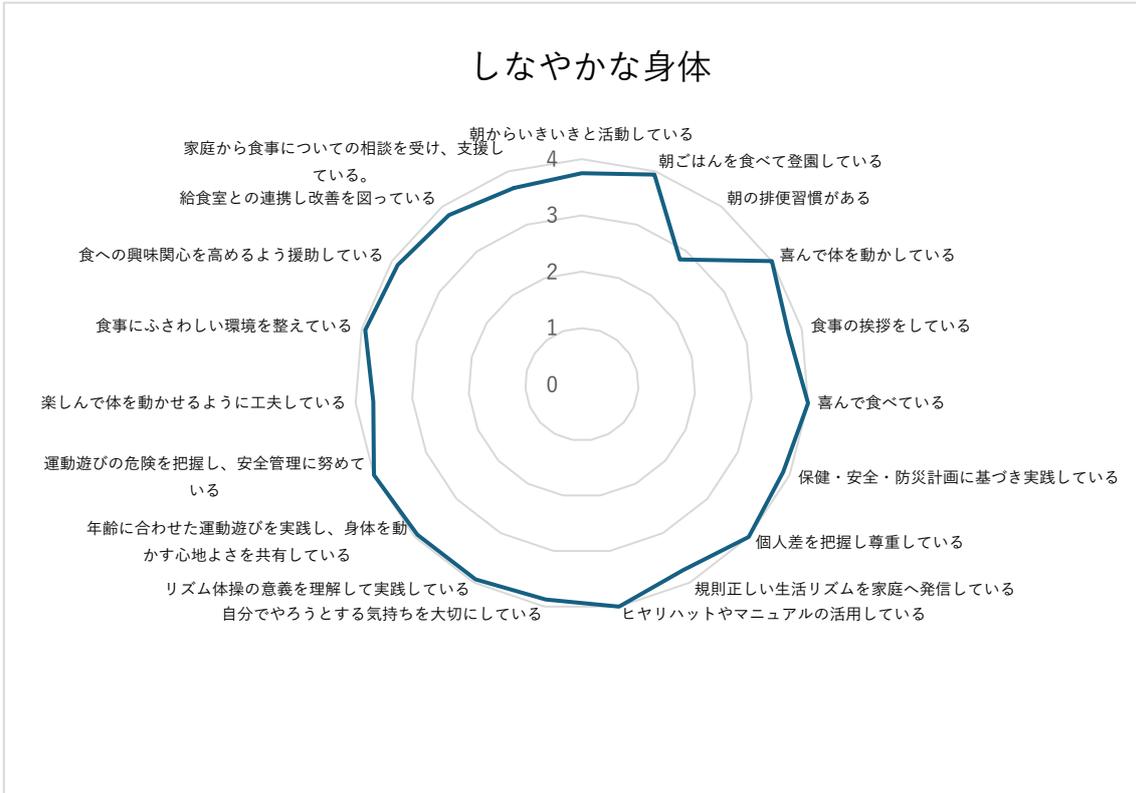
A：役割以上の業務を遂行した

B：支障なく十分に行われた

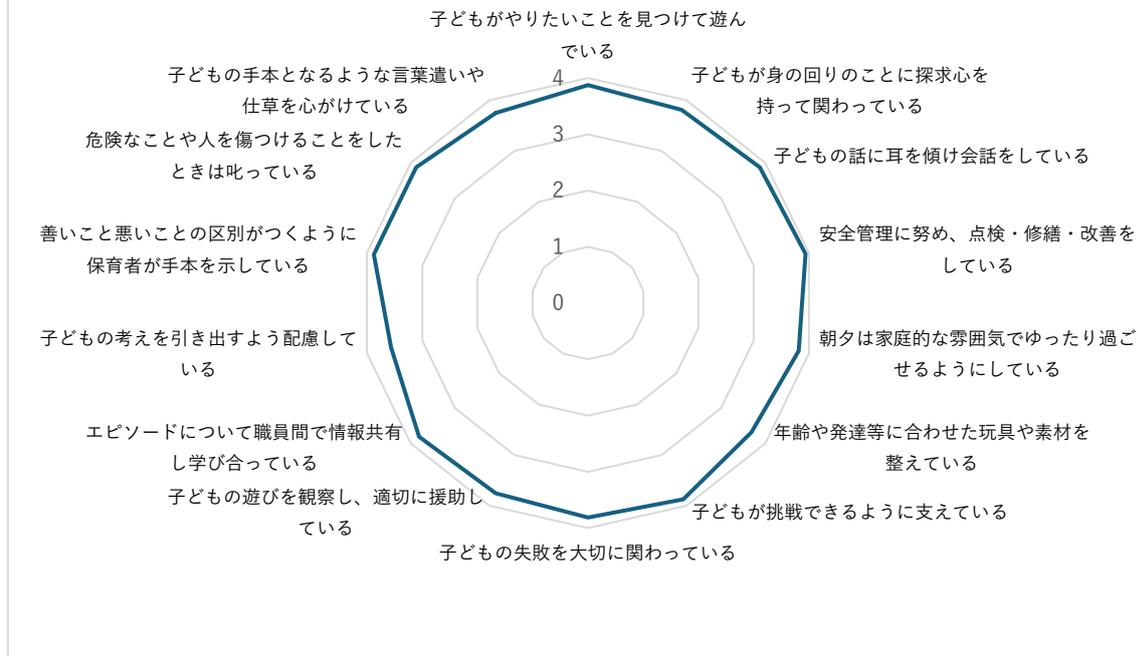
C：多少のミスや課題はあるが業務は遂行された

D：業務に支障をきたし園の評価を低下させた

#### 4、こども園評価基準に基づいた担任の評価結果



## 学びの根っこ



- ・保護者アンケートでは「早寝早起き」が課題となっていますが、子ども達は朝から眠そうな様子もなくいきいきと遊んでいるようです。朝の排便習慣は全体の課題として、家庭と連携して少しずつ改善を図っていきます。
- ・「喜んで体を動かしている」・「喜んで食べている」の項目は、保護者・職員ともに高評価でした。そのためか「楽しんで体を動かせるような工夫」の評価が低くなっていました。今後も、体を動かす心地よさを重視し、様々な種類の運動遊びを工夫していきます。
- ・「友達とケンカをしながら折り合いをつけようとしている」「思いやりの気持ちが育っている」についての評価が低かったです。結果だけ見ると、折り合いがつけられず思いやりがないと誤解される恐れがありますが、そうではありません。担任から子ども達の思いやり溢れるほっこりエピソードが多く聞かれることから、「思いやりの心」は着実に育っています。評価が下がった要因は次の通りです。「子どもが折り合いをつける過程を大切に関わっている」についての評価も低いことから、折り合うことへの援助を課題と感じている職員が多いことが分かります。「折り合い」には自分の気持ちと折り合う、他者と折り合う、みんなの中で折り合うなど様々な姿があり、保育者の援助が不可欠です。しかし、折り合うことが難しい時期もあり、子どもが気持ちに向き合うようになるためには時間も要します。すぐに保育者が解決せず、「子ども自身が折り合いをつけること」を意識している分、保育者の援助に課題が生じ、全体の評価が下がったと考えています。来年度は「子どもの折り合う姿と保育者の援助」に着目し、教育と保育の質の向上を図ります。
- ・学びの根っこについては全体的に高評価ですが、「子どもの年齢や発達、季節に合わせた玩具や素材を整えている」「子どもの考えを引き出すよう配慮している」は、毎年低い傾向にあります。発達や季節に合わせた手づくり玩具を工夫し、子ども達の遊びが更に広がるよう努めます。

## 5、こども園関係者評価委員の評価

外部評価委員会

令和に入り未曾有のコロナ禍により、日常の生活様式を変更せざるを得ない未知のウイルス感染症に翻弄され、計画した各種教育活動や保育活動の中止や縮小あるいは変更等を余儀なくされてきましたが、5年度の後半からはコロナの鎮静化と共に第5類に移行されたことにより、従来形式の教育活動や保育活動等をほぼ計画通りに実施することが可能となりました。かなりコロナ禍前の状態に回復することができたのではないかと考えております。全てをコロナ禍以前の状態に戻すということではなく、この機会に体験を通して得られた直接的な対面方式から間接的な連絡連携の取り方、園と保護者との効率的なコミュニケーションの取り方等それらの利点を活かしながらも引き続き広く活用の在り方を模索していく必要もあることと思います。例年ことながら、評価基準に基づき丁寧に資料を準備され、保護者、職員等の意見も取り上げながら、野の百合こども園の総意として創り上げていくご尽力に対しまして敬意を表します。

### ○家庭（保護者）とこども園は、お互いに子育てのパートナー

お互いが最良のパートナーになることによって、教育・保育効果生まれます。パートナーにとって大切なことは、お子さんを中心に据えた情報交換を行うことが大事なことだと思います。

➡コロナ禍を経験することにより、コロナ前よりお子さん個々の健康状態等の把握を初めとしてコミュニケーションをとる機会が増え、情報交換が活発化したこと。併せて、お子さんの様子を記録しお知らせする子育て連絡帳の活用を図ることにより、保護者から喜ばれ感謝されていることは、パートナーとしてのよい関係づくりが営まれている証しかと思います。今後お互いにより質の高い情報交換に努め、お子さんたちが楽しく元気に通えるこども園づくりにご尽力いただきたいと思っております。

### ○親子の触れ合う機会、本に親しむ機会の醸成

世の中のデジタル化に伴い、タブレットやスマートフォンでの動画視聴、ゲーム等の低年齢化が進んでいることは否めない状況にあり、子どもの健康上への悪影響が懸念されています。親子で話題を共有するに相応しいものの一つとして読書が上げられ、こども園におかれましても読み聞かせの一環として絵本等を入園式や日常生活の中で積極的に活用しています。

➡次年度から、ご当園におかれましても親子で楽しめたり考えたりするに相応しいお勧めの絵本を貸し出し用に準備するという事です。大いに活用され活性化することを願っております。

### ○子育てに相応しい環境としてのロールモデル

保護者アンケートの中には、いつも先生方から園児を細やかに温かく見守っていただいていることに対する感謝の声が随所に見受けられます。ご当園の保育・教育理念の中枢をなす3本の軸がぶれることなくどっしりと据えられ、園長先生を中心に全職員が心を一つに充実した活動が実践され、大きな成果を上げられている証しです。

➡保護者のご当園の先生方の園児に対する接し方を学び、寄り添いながら温かく見守る環境づくりを大いに学んでほしいと考えています。家庭教育に生涯を捧げた教育家ドロシー・ロー・ノルト博士は、著書の中で「励ましてあげれば、子どもは自信をもつようになる」「ほめてあげれば、子どもは明るい子に育つ」「愛してあげれば、子どもは人を愛することを学ぶ」と提唱されています。将来を担うかけがいのない子どもたちが大きな夢と希望に向かって健やかに育つ野の百合こども園として、さらに邁進されますことを願っております。